

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190800017		
法人名	株式会社 平安		
事業所名	グループホームききょう		
所在地	岐阜県山県市東深瀬505-2		
自己評価作成日	令和3年7月18日	評価結果市町村受理日	令和3年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190800017-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が自宅で生活をしているような場所作りをスタッフはめざしています。環境の整備や暖かい雰囲気施設の施設づくりを行う事で利用者さまの尊厳を尊重し穏やかで安全、安心に快適に過ごすことで家族様の信頼や協力を受けられ、これからも心のこもったサービスを提供して行きます。地域の方の協力やイベントの参加など無理のないように募り地域に密着した施設をこれからも目指していきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所全体で新型コロナウイルス感染予防対策を徹底し、利用者の健康管理に努め、落ち着いた暮らせるよう支援している。また、管理者は職員の意見を聞きながら、働きやすい職場環境作りにも取り組んでいる。今年から、職員全員がPCやiPadの使い方を学び、介護記録や会計業務の効率化を図るシステムを導入したことで、利用者へのサービスの質の向上、家族へのお便りと情報配信、ペーパーレス化にも繋げている。常に、地域に密着した運営を目指し、音楽教室の場所を提供したり、市との協定による福祉避難所として、井戸や自家発電装置を設置、地域住民に周知しながら、より良い関係を構築している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念の他に今年の目標を掲げ管理者と共に職員で取り組んでいます、少しでも利用者様に沿ったサービスを提供できるよう、日々話し合いをおこない実践につなげています	職員が常に意識できるよう、理念を玄関に掲示している。また、個人に配布されている人材育成ノートにも綴じ、理念について職員会議で話し合っている。家庭的な雰囲気作りにも努め、利用者が穏やかに過ごせるように支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為今までは交流があまり出来ない状態でしたが、少しずつイベントや交流の場を設けています、多くは出来ませんが、これからはもっと増やして行く予定です	新型コロナウイルス感染症が流行する以前は、敷地内にあるピアノ教室に通う生徒と利用者が交流をしていたが、窓越しでの交流に留めている。現在は、感染予防に努めながら、一部の交流を再開したり、介護予防ヨガなど、新たに導入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内に講師を招き研修や意見交換の場も設けています、職員の技術の向上も見られています、交流は減っていますがこれからは多くなって行くので地域にも発信して行きます		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行う事が出来なくなってしまった為、書面にて情報を提供し連携が図れるよう行っています。地域の方の個々の意見も活用しサービス向上に活かしています。	コロナ禍の現在、運営推進会議に代えて「事業懇談会」を実施している。会議のメンバーを訪問して、書面での報告及び助言を得ながら情報の共有を行い、利用者サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談員の施設訪問がまだ行われていないためうけいれが出来ない状態です、ホームページを開設し定期的に掲げ、積極的に伝えながら協力関係に取り組んでいます	現在、月1回訪問があった介護相談員の受け入れを中止している。行政からは、メールで新型コロナ関連情報等について配信があり、担当者とは、電話でも連絡を密にし、協力関係を構築している。事業所はホームページでも情報を発信するなど、連携方法を工夫している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてはミーティングなどで議題にあげて話し合い理解を深めたり、研修をおこなったりしています。利用者様の日常の行動や動きなどを職員間で共有し安全に過ごしてもらえるよう、定期的にサービスの見直しを行うよう努めています。	職員は、身体拘束の弊害について研修で学び、正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。グレーゾーンやスピーチロックについても職員間で話し合い、より良い支援方法を共有し、拘束による抑圧感がないケアの実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様に虐待に関してもミーティング等で勉強し、日常より常に注意喚起し虐待の防止に努めている		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	苑内研修にて日常生活支援や成年後見制度について管理者と一緒に話学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にケアマネと管理者が施設内の説明や料金等の説明をきちんと行いなっています、家族の相談などはその場で返答し理解をしていただくうえで契約手続きをしてもらうよう努めています。料金等の改正時は書面にて案内させていただいています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームページの更新を常時行う事で情報を発信したり、短時間の面会などの時に状態説明などを行い、家族の方の意向を求め今後の介護に反映させている	コロナ禍により、様々な制限はあるが、短時間の面会を実施している。また、情報の発信方法として、インスタグラムで利用者の様子をいつでも家族が見れるようにしたり、ホームページには、家族専用ページを作っている。電話や訪問時にも、家族の意見を聞き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回ミーティングやモニタリングを行い各職員が意見を述べ今問題になっていることなどの解決策を考え良いケアが出来るよう努めています	管理者と職員は、互いに提案や意見を言える信頼関係ができている。月1回のミーティング以外にも、緊急性のある内容については、速やかに話し合っ業務改善を行い運営に反映させている。また、管理者は職員一人ひとりが仕事にやりがいを持てるよう、職場環境作りにも取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福利厚生などを職員に勧めたり、職員の意見をもとに働きやすい環境づくりを行ったり、個々の意見に耳を傾け対応し、きちんと説明を行う事で働きやすい環境にしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修を行い技術の向上を目指しています、職員の健康管理を行う為健康診断を年に一回行い体調管理を行う事で安心して働ける場所を提供している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オンラインで他の施設の介護者と話し合える機会を設けたり、意見交換が出来るように現場で活用しています、研修の案内等はすべて参加者を募り参加して頂けるよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを提供する前にアセスメントをしっかり行い、最初は本人の不安や要望などに聞き、安心して生活できる場所の提供に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初にしっかり面談を行い、希望や心配事をしっかり把握し、アセスメントを作成し情報の共有を行う事で家族の方の信頼を得られるように対応している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員は家族とコミュニケーションを取るようして面会時や電話での会話の中でいま困っていることや希望されるサービス等を探し出し提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と向き合い、個性や今までの暮らしぶりなど聞き、自宅にいるような介護をいつも考え、その人らしい生き方をさせていただけるように支援しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会も徐々に緩和して行っていますので、家族の方に面会に来ていただくよう声掛けを行って行き疎遠にならないようにしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外の方の面会はまだまだ規制をかけていますが、関係を忘れないようこれからは少しずつでも声掛けし途切れないよう支援していきます	コロナ禍により、現在、電話予約で家族のみの面会とし、玄関越しに実施している。日常的な買い物や喫茶店等への外出は自粛しているが、馴染みの人との関係が継続できるよう記憶を繋げる声かけで、支援を行っている。	コロナ禍により、馴染みの場所へ自由に行けない状況である。住み慣れた景色や思い出の場所の写真や動画を利用したり、地図などの作成、回想法等の実施で、関係継続の支援となるよう期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんには好きなこと、興味のあることを行ってもらおうとしています、全員でレクを行ったり、ホットプレートでおやつを作ったりして楽しく過ごせれるよう考え対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了していても、家族より相談や連絡があった時は親身になり対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人をよく観察しその人に合った支援を皆で共有し安心して生活してもらえよう行っている	職員は、日頃から話しやすい雰囲気を作り、個々の思いや意向を聞くよう努めている。自己表現が難しい利用者の場合は、日常の様子を注意深く観察しながら思いを推測し、新たな気づきがあれば、申し送り時に職員間で話し合い、情報の共有をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションを取りながらこれまでの生活歴を聞いたり家族の方に聞いたりして多くの情報を集めサービス提供に役立てています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の一日の生活や行動の流れを記録に残し、職員全員が利用者様の今の現状が把握できるよう努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常的に職員同士が意見の交換を行っています。ケアについて再度検討を行う為月に一回モニタリングを行う事で介護計画を立てたり、新しいアイデアや意見が出てサービス提供に役立てている	日常的に利用者一人ひとりの支援方法について職員間で検討し、情報を共有している。介護計画は、主治医や看護師からの意見、利用者や家族の希望を聞き、月1回モニタリングを行い、状況に応じて計画を見直ししながら支援を実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎朝朝礼を開催し、行い引継ぎを行う中でサービスの見直しを行う為、新たな気づきなどを共有するようにして、安心して一日過ごしてもらおうようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様全員、サービスの提供内容が違う事がある為、一人一人に寄り添いその人に少しでニーズに合ったサービスを提供できるよう取り組んでいます。		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護相談員の受け入れは今では行えない状態ですが、利用者様が安心、安全にその人らしい生活が続けていけるよう支援したり、他の施設の職員が相談事や話し相手を行う事で生活にメリハリをつけ楽しんで過ごしてもらうよう努めています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に主治医の診察を受診し状態の把握をお願いしています、異常時の時は診察が適切に受けられるように協力して頂いていますので、本人や家族の方も安心して頂いています。	契約時に、かかりつけ医について説明し、利用者と家族が選択している。協力医の往診は月1回あり、管理者と看護師が立ち会い、助言を得ながら家族に説明している。かかりつけ医への受診は、家族に依頼している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で利用者様の状態の報告を定期的に看護師に行い、主治医と連携を持ちながらアドバイスをもらい適切な診療が受けられるよう日ごろから行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ケアマネが病院の相談員と連携を持ち定期的に連絡を取り、利用者様の今の状態把握に努め、退院後も安心して生活が出来るよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアマネが家族の方と面談し、家族の意向を把握したうえで、希望内容に沿った介護が行えるよう、職員と情報を共有し支援している、終期末についても同じよう対応している	契約時に、重度化や終末期の対応について説明している。状態が変化した時は、その都度説明し、利用者と家族の意向を確認している。職員は終末期・看取りについての研修を受けながら、関係者と連携し、本人・家族の希望に沿った支援が行えるよう取り組んでいる。	看取り経験がある職員も多く、利用者と家族への接し方や急変時の対応等の研修を受け、より良いケアが行えるよう学んでいる。今後も、更に職員の心のケアも含めて、継続して取り組まれることに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルが作成されているので、緊急時に備えています応急手当の対応などは研修を行って実践に備えています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方を呼び避難訓練を定期的に行っています、通報や消火等なども実践で行い、いざという時に備えています。緊急連絡簿は全員に配布して速やかに連絡が取れるよう対応しています	年2回の災害訓練を計画的に行っている。緊急連絡方法は、電話及びラインワークスを活用した一斉連絡の方法を整えている。災害時における福祉避難所として市と協定を結んでおり、助成金で自家発電装置を設置し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間の会話や声掛けなど気お付け一人一人の尊厳を大切にプライバシーを守るよう日頃から注意し意識を持って対応している	職員は、利用者情報を共有し、利用者の状態に合った対応や言葉遣い、声のトーンにも留意しながら支援を行っている。また、常に利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保ができていないかを注意喚起し、確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者様の思いや希望を見つけ出し職員間で話し合い、希望に添えられるよう働きかけ、自己決定が出来るようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活の流れは決まっていますが、一人一人の生活に合わせ無理なく、押しつけが無い様に対応し、自分らしい生活が遅れるように行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った衣類を着て頂いたり、数枚の衣類が準備されていますので、希望される衣類を着て頂けるよう各居室に箆笥を置きいつでも選べれるようにしています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き取り、ホットプレートなどを利用し利用者様が調理に参加出来る献立を考え楽しく作業しながら、食事をして頂く機会を設けています	朝食及び主食と汁物、デザート等は職員が用意し、昼・夕の副食は、法人が運営している配食サービスを利用し、利用者の嚙下状態に応じた食事形態で提供している。行事の時は、献立作りや準備から片付けまで、職員と一緒に、利用者も楽しみながら関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えたバランスの良い食事を提供していますが、時々利用者様の希望に答え職員がつくり提供したり、一緒につくり食べていただいたりもしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは自立の方は自分で行ってもらうよう見守りをし、出来ない方は職員が介助しながら口腔内の清潔の保持に努めています		

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立に向け排泄感覚などケア記録に残し、それを職員間で参考にしながら、タイミングを図り声掛け、誘導を行う事によって排泄の自立を促していけるよう支援しています	利用者の排泄状況をタブレットとチェック表に記録し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。利用者それぞれの状態を考慮し、さりげなく声かけ誘導を行っている。また、適切な排泄用品を使用することで、家族の経済的負担の軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	リハビリで体を動かしてもらったり、適量の水分を取ってもらったりして排便を促していますが、排便の記録を残し、各利用者様の状態によって主治医に相談し薬で対応することもあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の日は決まっていますが、個々がゆっくり入浴できるよう午前と午後に分け利用者様が好きな時間に入れるようにして、負担が少しでも軽減されていけるよう対応しています。	週3回の入浴日があり、利用者が希望する時間に支援している。残存機能の維持・向上を目指し、できることは自己にて行えるよう、声かけと見守りを行っている。また、利用者の身体機能に合わせ、リフトを利用することで、安全で楽しい入浴が出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビの前にソファを置いたり、居室と居室の間に椅子を置いたり自由に施設内が移動でき休めるようにしています。居室はコールではなく光センサーで対応し、ゆっくり静かに休めるようにして安全を確保しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行っていますが、服薬は職員が行っています。名前、薬の間違いな無いように、職員同士の確認や本人に確認しながら誤薬が無い様対応しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本を読む方、テレビを見る方、職員の手伝いをしてくれる方と色々な方がみえます、その人に合った事をしていただき生き生きと生活が出来るよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為行動範囲が狭くなりましたが、隣の施設に行ったり、施設の周りを散歩したりして気分転換を図っています、コロナ収束時は家族の方にも声掛けを行い、いちご狩りに外出をし楽しんだりして抱えています	近所の散歩以外の外出は、コロナ禍により自粛していたが、4月には、感染予防対策に努めながら家族と共に「いちご狩り」を楽しんでいる。今後も行政と相談しながら、戸外での活動方法を検討し、利用者の希望に沿った外出先選択や、行事などが出来るよう取り組んでいる。	

岐阜県 グループホームききょう

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日常生活の中でお金を持つことは大切だと思いますが、お金を使う場所がない現状です、お金が入用でも家族から預かって管理者が代わりに払う事が前提ですが、利用者様に聞きながら対応して行きたいと思います		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から希望があれば対応しています。年賀状などは希望を聞いて対応しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と季節に合わせた作品を作り飾ったりしています、居室にコールではなく廊下側に小さい光センサーをつけゆくり休めれるよう対応しています、今後はベット体感センサーをつけ利用者様に負担が無い様緊急時でも対応できるよう考えています。	今年度は感染予防対策のため、離れた位置からの確認とした。共用スペースは広く、ソファや椅子が所々にあり、利用者が好きな場所で寛げるようになっている。壁には利用者と職員の共同作品や、利用者の習字作品等を掲示している。テーブルには、個人のお茶が入ったボトルがあり、いつでも水分補給ができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	46番と同じように個々が自由に行動できるよう工夫をしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室も広く希望があれば家族の方も泊まれるスペースがあります。衣類を保管する箆笥があり自由に個人の物を飾ったり、母の日のプレゼントなど置いたりできるようになっていますので、好きな時に写真など見て過ごせる工夫もしています。	今年度は居室への入室はせず、廊下からの確認とした。ドアの上には利用者の動きに反応する手作りの光センサーが設置されており、夜間の見守りに役立っている。箆笥とベッド以外は、使い慣れた家具を持ち込み、小物や写真を飾り、落ち着いて過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりは設置しています、車椅子や歩行器などスムーズに移動できる広さを確保していますので、利用者様同士が接触しないよう安全に配慮し自立生活が継続出来るように工夫しています。		